

五感を生かす幼児のサイエンス遊び

早島幼稚園で幼児のサイエンスを実践する研究会

活動の目的

五感を十分に働かせながら自然の事物現象とかがわる活動経験を積み重ねることで、就学前の幼児がサイエンス（科学的な活動）に対する興味関心を高め、自然に親しみ楽しむことができ、将来理科好きな子どもに成長することを願う。

活動の内容及び経過

環太平洋大学・理科教師塾®の支援を得て、次の全2回の活動を実施した。

【第1回：平成29年11月12日】日曜参観日に全幼児と保護者を対象に実施

発達段階に応じた題材を扱いながら、大学生の支援を受け、親子で協力しながら製作活動をした後、それらを使ってサイエンス遊びを楽しんだ。

年少児は「風と音で遊ぶ／くるくるへびとでんでん太鼓」、年中児は「磁石の不思議／磁石カーづくり」、年長児は「あかりをつけよう／ぱっぴか」に取り組んだ。

【第2回：平成30年2月15日】年長児を対象にクラスごとに実施

「光の影のサイエンス」の導入として影絵当てクイズを楽しんだ。その後、影絵の仕組みを知り、4～5人のグループに分かれて影絵を楽しんだ。最後に、グループで考えた影絵クイズを全体へ発表した。

活動の成果・効果

第1回は、大学生による事前準備と当日参観中の保護者の協力により、短時間で製作に取り組むことができ、すべての幼児が楽しみながら発達段階に応じたサイエンスにふれることができた。中でも年長児向けに準備した電気が通るもの発見器「ぱっぴか」は、活動の後も園内にある様々なものにあて、導通テストをする幼児が多く見られた。

第2回は、年長児のみで活動を行った。グループ活動では、大学生1～2名のサポートがあったことで、幼児一人一人が影絵を楽しむことができた。活動終了を告げると「もっと影絵で遊びたい」などの声が多く聞かれ、各保育室に戻った後には太陽を利用した影を作って遊ぶ幼児の姿が見られた。

大学の有するサイエンスの技能を保育に生かすことができ、学生の支援により幼児のサイエンス感覚の涵養に資することができた。



今後の課題と問題点

継続的に本活動を実施できる体制づくり、支援体制、教職員研修が必要である。

活動を実施するためには、アイデアを実行に移す準備と消耗品の準備のための経費の確保が必要である。

- 代表者：小郷順子 ●所在地：都窪郡早島町前湯
- TEL：086-482-0005
- 設立年：2016年 ●メンバー数：14名